



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」
“Action” 「アクション」
「為せば、成る」 No challenge No fruits
「未来はそれに備える人のものである」
「入りたいな」と思われる楽しい会に

2019年11月号
NO 518

神は、見劣りする部分をいっそう引き立たせ、体を組み立てられました。
それで体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮しあっています。

(コリントの信徒への手紙①12章24節)

個人のワイズ理解の総和

吉田 明弘

30年ほど前、元国際会長の鈴木謙介さん(大阪)が「私は、これから、ワイズを勉強したいのがあります」と言われたのにはびっくりしました。

鈴木さんは、戦前の1940年、北京の日本人YMCAに設立された北京クラブのチャーターメンバーです。しかも国際会長を務められて数年経ていました。そんな人が、これから何を学ぼうというのか。それは、ずっと私の疑問でした。

今、私は、大変僭越ですが、鈴木さんは、ワイズが、どうあるべきか、思いを巡らしておられたのでしょうか。

ワイズメンズクラブは、ひとつ

の具体的な目標に向かうクラブではありません。ですから成果を数字で表したり、優劣を競ったりするのではなく、社交(人との交わりを中心とする)のクラブです。クラブの存在理由、クラブに参加する意味は、メンバー1人ひとりの中にあるのではないのでしょうか。

私は、なぜクラブに属しているかを、常に自分に問いかけ、答えられるようにしたいと思っています。これは、人ごと、時ごとに違います。「浮世の義理で」とか、「乗りかかった船で」という答えもあり、としています。

個々の存在価値の総和が、クラブの魅力度ではないのでしょうか。

荻窪の歴史的建造物

WHOウォーキングのご案内



太田黒公園の樹齢100年のイチヨウ並木(杉並・荻窪太田黒公園)

荻窪の一部はかつて別荘地と言われ、文士も多く住みました。秋を楽しみながら昭和期の歴史的建造物を訪ねます。

期 日:11月23日(第4土曜日)

集 合:JR中央線荻窪駅北口

ルミネ前 9:45

解 散:同南口 14:30

携行品:雨具、昼食、飲料持参

会 費:300円。初めての方は名札代200円

クラブ役員

会 長 篠原 文恵
副 会 長 大野 貞次
書 記 神谷 幸男
会 計 高嶋美知子
担当主事 木川 拓

10月の記録		ニコニコ	6,250円
在籍者数	14人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	0円
出席者数	11人	コメント	0人
メーキャップ	1人	クラブファンド(残高)	156,587円
出席率	86%	ビジター	2人
前月修正	-	ホテ校ファンド(当月)	7,700円
		ホテ校ファンド(残高)	31,229円
		WHO参加者	41人

11 月例会のご案内

今月の強調テーマ：ワイズ理解

人間の営みは、コミュニケーションで成り立っています。良いコミュニケーションをとりたいと、誰しも思いますが、思うようにはいきません。

今月の例会には、テレビ報道の現場、政治の世界で活躍された甲府 21 クラブの米長晴信さんをお招きして、よく聴くこと、よく伝えることの極意をうかがいます。ぜひお出かけください。

日時：11月21日（木）18：45～21：00

会場：ウエルファーム杉並 4階集会室

（杉並区天沼 3-19-16 Tel 03-5335-7330）

会費：1,500円（ゲスト、ビジター、メネット）

担当：A班（高嶋、鳥越、吉田）

HAPPY BIRTHDAY

今月がお誕生日の方

受付 村野 絢子
司会 吉田 明弘

開会点鐘 副会長 大野 貞次
ワイズソング 一 同
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 大野副会長

卓話 甲府 21 ワイズメンズクラブ副会長
米長 晴信さん
『コミュニケーションの心得・極意』

諸報告 大野副会長
YMCA 報告 担当主事・木川 拓
ハッピーバースデー 大野副会長
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 大野副会長

—10月第2例会(事務会)—

日時：10月24日（木）

19：00～21：00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：大野、神谷、篠原、
高嶋、村野、吉田

<報告事項>

①10月の記録

ブリテン記載の通り確認した。

②10月23日現在の会計報告があり、1点微修正して承認された。

<協議事項＝例会関係＝>

①12月例会

クリスマス特別例会とする。会場は阿佐谷「かごの屋」が候補として仮予約済み。例会内容は検討中である。

②1月例会

村野さんの知人が卓話者候補として承認された。村野さんが交渉にあたる。

③2月例会

従来、食事の関係で内輪の卓話者を選定していたが、TOF 例会はワイズメンズクラブの特徴であるから、むしろ宣伝効果を期待し通常例会として外部に発信して行くべきであるとの意見を共有した。

④YMCA から協力要請のあった

15号、16号の被災地支援献金は。クラブとしてまとめず、メンバーが指定口座に振り込むことにした。

⑤3月合同例会（恒例東京世田谷クラブとの合同例会）

卓話者として「フードバンク」を主宰している黒田知代さん・基樹さん（埼玉）に交渉中であると担当者から報告があった。

<協議事項＝例会関係以外＝>

①12月号ブリテン編集会議：

担当者提案原案を2点加除した。その他は入稿メ切までに追加する。

②紙ブリテンの既発送決定先に熊本にシクラブを追加する。

③12月の事務会（第2例会）

12月26日に行う。

④メンバー間のメール不着問題：不着の旨の通知を見逃すことなく対応する。そのほかは原因不明につき暫く様子を見ることにする。（書記・神谷幸男）

台北中央クラブ 40 周年第 2 報

来年3月に創立40周年を迎える台北中央クラブの Mark Lin さんから「この栄誉と喜びを私

卓話者紹介

米長晴信(よねなが・はるのぶ)
さん

1965 年生 永世棋聖、米長邦雄の甥。

2000-2005 フジテレビ報道局勤務。社会部・政治部・海外特派員として数々のレポートを視聴者に届ける。ニュース番組プログラムディレクターとして番組構成、キャスターコメントを統括。

2007-2013 参議院議員
みんなの党メディアアドバイザー

2017 甲府 21 ワイズメンズクラブ入会

2019 一般社団法人やまなしランド設立

と分かち合ってください」と、祝賀会の招待状2報が、神谷幸男・国際担当委員に届きました。記念祝賀会は、3月14日（土）午後1時から、市内のスターライトレストランで行われます。詳細は事務会で報告します。



被災地にて炊き出しボランティア活動中の宇都宮ワイズメンバー

ポジティブネットYMCA募金 台風19号・15号 被災地支援

10月12日、関東地方と福島県を縦断した台風19号は、広域にわたり甚大な被害をもたらし、いまだ被害の全容は把握されていません。

その中で日本YMCA同盟は、被災地支援のために立ち上がり、目標額3,000万円の募金活動を開始しました。同時に、千葉県、埼玉県、栃木県、群馬県、茨城県、福島県、宮城県地域と全国YMCA支援のもとに支援活動を進めます。

10月18日のワイズ東日本区常任役員会を皮切りに、次期部長・主任研修会、区役員会でも情報交換をするとともに協力関係を打ち合わせました。

募金の使途は、①復興、復旧支援ボランティアワーク、②リフレッシュキャンプやプログラムへの招待、③子供たちのレクリエーションや心のケア、です。

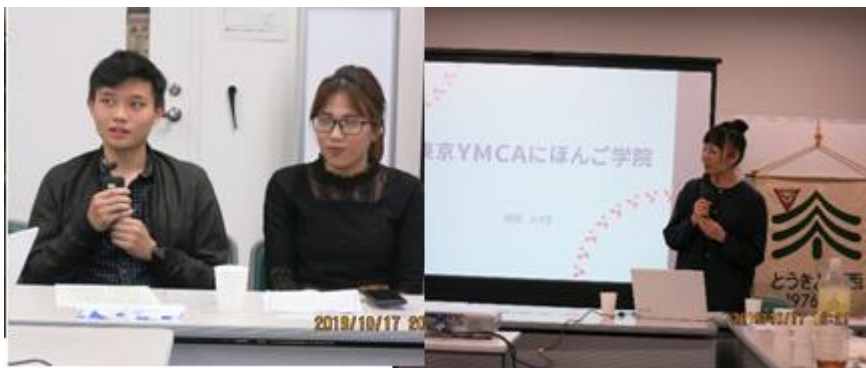
関連記事は、p2「事務会報告」、p4「YMCA Today」にあります。

宇都宮のワイズ、動く

10月18日のワイズドットコムに、自身も被災された北東部長、鈴木伊知郎さん(宇都宮東)からの宇都宮市内の被災状況と支援活動のレポートがありました。緊迫感が伝わってきました。

12日(土)19時頃、市内田川の水位が上がり始め、家財を2階へ。車を高台へ移す、水深20cmとなり避難開始。

22時10分頃、田川氾濫。自宅



10月定例会報告で卓話するYMCAにほんご学院
柳原さんと留学生のオアンさん、フィさん

床上浸水 40cm。停電して孤立。

午前前1時雨が止み、同4時頃水位が下がり歩けるようになった。

13日(日)夕方までに有志14人来宅、清掃してボランティアセンターとしての体裁を整え、とちぎYMCAにボランティアセンターを開設。夕方から鈴木宅で炊き出し開始。

14日(月)YMCAボランティアセンター開設。鈴木宅はボランティアの受付に。ボランティアは80人超。8班を編成、ヒアリングを実施、活動開始。家内外の汚泥除去、畳を運び出し、ゴミの袋詰め、ゴミを市郊外の仮置き場へ運搬。古タオルなど回収をSNSで呼びかけ、配布。

15日(火)活動継続。市社会福祉協議会と打ち合わせ。

16日(水)市社協が、17日から活動開始。

宇都宮東クラブ、宇都宮クラブのメンバーが、ボランティアとして泥にまみれて、車の提供や力仕事を行うなど幅広く活動し、とちぎYMCAは、地域と協働して持てる特性を発揮しています。

YMCAにほんご学院 —10月例会報告—

10月例会は卓話に東京YMCAにほんご学院業務主任の柳原みずきさんとベトナム出身の学院生 Kieu Thi Lan Oanh(キウ ティ・ラン・オアン)さん Nguyenn Dinh Le Huy(グエン・デイ・レ・フイ)さんを迎えました。

柳原さんの卓話は「東京YMCAにほんご学院10周年に向けて」。スライドを用いてのお話でした。

現在、来日する学生が多く、日本語学校は、500校が乱立する中で、YMCAにほんご学院は4つの特色を打ち出し、①授業の工夫、②親身な指導、③YMCAが経営するホテル・保体校・医療福祉校と連携し、就職に有利になる進路指導、④YMCAの多様なイベントへの参加で、差別化を計っているという。学生数は、最近ではベトナム、中国、ネパールの順に変わってきているそう。現地での面接を重視し、基礎的な学力、学習意欲のある生徒を獲得するために、校長、職員の地道な活動により、ますます模範校としての実績が高まっていることが見てとれた。

学院生二人が学んだこと・経験したことを話された。参加者から多くの質問等を行いました。お二人はこれからも勉強を続け日本で就職し日本で生活をしてゆくとのことでした。頑張ってくださいとエールを送りました。

(大野貞次)

出席者<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、神崎、木川、篠原、高嶋、鳥越、本川、吉田、<ビジター>田上正(熊本むさし)、太田勝人(東京町田スマイリング)、<ゲスト>柳原みずき、キウ・ティ・ラン・オアン、グエン・ティン・レ・フィ、久留道子、<メネット>神谷、<メイキャップ>村野(敬称略)

あずさ部会、12月14日に順延

10月19日(土)、松本で開催予定されていた、あずさ部会は台風15号による松本への大動脈断絶のため、12月14日(土)に順延されました。詳細は、篠原会長からメールで送信済みです。

この日は、松本クラブが行う、アジアからの私費大学生の日本語論文コンテスト(アジア賞)の表彰式もあります。少人数クラブである松本クラブが行う大きな事業を学ぶチャンスです。

東京八王子、25周年記念誌

創立25周年を迎えた東京八王子クラブの記念例会は台風のため中止となりましたが、『東京八王子クラブ創立25周年記念誌』は、発行されました。

事業、プログラムごとにまとめたもので、事業をはっきりしているクラブらしい読みやすい企画です。(吉田明弘)

聴いて、歌って、収穫して

WHO12月例会報告

前日の激しい雨は、このまま降り止まないのではと思うほどでしたが、10月26日は、秋晴れとなりました。参加者は、41人。コースには案内には書かない趣向を2つ仕込んでいました。参加された方はカンが良い。

中央線国立駅からバスで南武線、谷保駅で移動、東日本の天満宮では最古の谷保天満宮へ。かねて、お話が上手と伺った権宮司さんにお話しを依頼していました。

重要文化財や歴史資料が展示されている資料室で、30分以上の解説を聴きました。天満宮と天神の違い、谷保神社の由来、菅原道真の流罪、災除け、豊作祈願、学問の神、車のお払いなど、それぞれのご利益の期限や時代背景を明解に、ユーモアを交えて語られました。

電車で1駅、矢川駅に移動して、キャベツやサツマイモ畑を抜

けて、矢川の清流を遡行。川幅約2mながら、水量は多く川底の小石が見える透明度、沿岸の家の生活用水にも使われている様子です。水源の湿原、矢川緑地公園は、秋の色が増していました。



矢川の清流の源泉地の緑地

ここでUターンして国立市街地へ。東京武蔵野多摩クラブの石丸由理さんの好意で、主宰するリトミック教室で休憩させていただきました。もともとは、そういうことでしたが、お願いして、リトミックのスタジオで、輪になって座り、石丸さんの語りと講師の先生の伴奏で、懐かしい秋の歌を主に5曲ほど歌いました。大きな声で歌うのは久しぶりと言う方も多く、喜ばれました。

ここから5分の距離にある澤登キウイフルーツ園では、それぞれが、枝から摘果し1kg600円で買いました。果肉の色は、緑、黄、赤とあるそうですが、木に実ったままでは熟さず、もいで、常温で約2週間追熟すると食べられるとのこと。それを楽しみに、それぞれ重いリックを背負い、国立駅まで歩きました。

ワイズ関係参加者は、吉田(東京西)、中澤(東京たんぼぼ)でした。(吉田明弘)

東京YMCAのHPで、WHOの毎月の予告と報告を写真入りで見ることが出来ます。

http://tokyo.ymca.or.jp/communit/suginami_news/



YMCA Today

■東京YMCA国際ホテル専門学校2020年度第1期入学試験は、10月26日に実施。次年度に向けてまずはホテル科90人が合格の運びとなりました。

■台風15号、19号の被災者支援のために、全国YMCAは3,000万円の目標額を掲げ、10月17日から一斉に募金活動を開始しました。今後、国内のYMCAが協力し、ボランティアワーク、リフレッシュキャンプ、子ども達の心のケアなどの支援活動を進めていく予定。東京YMCAでは、10月から11月にかけて、東陽町、三鷹、国立、高田馬場、錦糸町の各駅周辺で街頭募金を予定しています。

■10月19日、東京・フロストバレーYMCA・40周年記念感謝会が、東陽町センターにて開催されました。第1部には77人が出席、徳久俊彦学校法人東京YMCA学院理事長の奨励による礼拝に続き、パートナーシップの誕生と発展に貢献した本間立夫・恵美子ご夫妻に感謝の盾が贈られ、パートナーシップにゆかりのある4人の方々と本間ご夫妻にメッセージをいただきました。第2部は、現地でのキャンプに関わったリーダーOBや関係者70人が集い、レクリエーションや懇談を楽しみました。なお、11月1日~3日には、ニューヨーク・フロストバレーYMCAキャンプ場において、40周年記念キャンプが行われ、東京YMCAから10人が参加する予定です。(担当主事 木川拓)

クラブロッカーの有効活用

東京YMCA山手会館の地下に、クラブのロッカーがありますが、まだスペースがありますから、活用しましょう。創立以来のクラブブリテン、WHOレポート、クラブで編集した印刷物、表彰状、写真など、個で保管していると便利ですが、失なわれる可能性もあります。

☆☆☆ インタビュー ☆75☆ 大谷 博愛さんに聴く

東京サンライズクラブ

* * *

大谷博愛 (ひろちか) さんのラグビー熱は半端ではありません。



—ラグビーW杯の日本大会、最高に盛り上がっていますね。

「これを機会に、ラグビー愛好家が増えて、正面から正々堂々と激しく戦い、試合が終われば友だちというノーサイドの考えが日本の社会に定着するといいいですね。口角泡を飛ばしてやり合っても決着がつけば、わだかまりを残さない議論が日本人は苦手ですよ。子どもたちがラグビーを好きになってもらいたいです」

—大谷さん自身、プレーは。

「学生時代から観戦していました。実は、職場の大学で、ラグビー一部の部長を長くやっていたので、素人の割には、かかわりは深いと言えるかもしれません」

—英国留学時代には。

「息子が12歳でWest of Scotland という名門クラブに所属したので、毎週末に練習や試合を観ていました。ナショナルレベルのビッグマッチにも付き添いで行きました。息子のクラブは、広大な敷地にピッチと更衣室やバーを備えたクラブハウスがあり、会員にはナショナルチームレベルの名選手から年配者や子どもまでいて、ある種ファミリーのようなコミュニティができていました」

—ご子息は、今年、高校の監督として“花園”に行かれましたね。

「先輩に頼まれ、母校(大学)の

一チを引き受けていましたが、4年程前から母校(高校)の監督をやるようになっていたそうです」
—話が変わります。ご出身は札幌ですね。どんな子どもでした。

「遊びまくる悪ガキでした。当時の子どもの遊びは何でもやって、大声を出しながら駆け回って、私の大声は近所でも有名でした。小学校の高学年になると、野球やホッケーに夢中になり、勉強することは苦手でした。授業には、仲間外れにされないよう、騒ぎながらでも出ていました」
—大学進学で上京された。

「そうです。東京YMCAの山手学舎で生活したことが、私の人生を豊かにしてくれたと実感しています。今でも山手学舎との繋がりが私に生きる張りを与えてくれます。YMCAには、子どもの頃、行っていました」

—ワイズへの入会は。

「1989年、東京サンライズクラブがチャーターする時、私にとって父親のような存在だった故奈良良信さん(東京山手)から、やってみろよ、と言われて入会しました。ワイズが何たるか全然分かっていませんでした」

—大学では、今春まで、政経学部長を務められました。ご専門は。

「政治学です」

—近年、世界の指導者に熱病が蔓延しているかに感じますが。

「デモクラシーの弱点が露呈している感じです。数を武器にして、デモクラシー以前の権力の横暴が罷り通っています。選挙に勝ただけで民意に支持された権力というのは、欺瞞です。どの国政選挙でも全国集計で与党の得票率は50%を大きく下回っておりますし、万一過半数であったとしても、与党を支持しなかった人たちも立派な有権者です。ですから、権力は謙虚でなければならぬ、それがデモクラシーの基本精神です」

—現在の若者を何年か後に、ワイ

ズに迎えるとしたら、何を変えるべきと思われますか。

「お金と時間のバランスが問題だと思います。メンバーとして参加すべき、参加が望ましい行事が多く、かなりの出費を伴います。忙しく働いてある程度の収入のある人は時間がありません。収入があって時間も自分流に調整できるのは自営業の人ということになります。少数金持ち路線か大衆路線か、選択すべきですが、今は曖昧である気がします。私は後者路線を取るべきだと思います。平均収入の人が引け目を感じずにメンバーでいられる運営に切り替える必要があると思います。前者を採るなら、会費や寄付の単価を数倍上げていけば、会員数が増えなくても、社会奉仕団体として現在と同等の存在を保つことができると思います」

—昨年度、クラブ会長を務められました。3回目ですね。

「そうです。1回目と2回目は、周りを見回して順番だから引き受けるべき立場かなと感じて、ほとんど何も分からずに引き受けてしまいました。会長意識も薄弱で、メンバーが支えてくれました。3回目になって、やっと意識は持ちました。東日本区大会をホストしましたが、メンバーに支えてもらったことは同じでした」
—ワイズに加わって良かったと思うことは。

「多くの人と知り合いになれたことでしょうか」

—座右の銘がありましたら。

「親から言われたことですが、苦しい状況に遭遇した時、それに立ち向かう力が私にあるから天が私に与えた試練だ、と思うようにしています」

—ワイズに期待は。

「30年ワイズをやっていますから、期待と言うより、メンバーとしてどのように行動したらよいか、考えています」

—有難うございました。(吉田明弘)

東京江東クラブ60周年祝会

10月5日(土)午後5時から亀戸・アンフェリオンで開かれました。参加された方は140人と盛大に行われました。クラブからは篠原会長、神谷、大野でした。

式典は3部構成で、1部は還暦寄席でした。

2部の記念式では4人の来賓の挨拶などがあり、永年在籍者表彰が行われました。

3部の懇親会では鏡開き、乾杯、会食、そしてパフォーマンスの時間が持たれました。

IBCの台中長栄クラブの挨拶、東京江東クラブのパフォーマンス(ダンス)、江東YMCAスタッフによる歌と踊り、最後に今春に入会した大原真之介さんが作られた江東ワイズ60周年記念ソングに参加した全員で合唱、楽しい時間が流れました。

午後8時にお開きとなりました。本当に盛大な祝賀会に感心をし、東京江東クラブのすごさを感じました。(大野貞次)

ー東京たんぽぽに2人入会ー

10月8日、東京たんぽぽクラブで、2人の入会式が行われるとの嬉しいニュースを聞きお祝いに伺いました。

卓話は、ユースボランティアリーダーズ・フォーラムに参加した2人の学生の報告と感想でした。

入会者は、いずれも「わくわくサロン」や、バザー・クリスマス例会などに出席活躍され、代々木での区大会、仙台でのアジア太平洋大会に参加するなど、深い理解を示されての入会と聞きました。夏祭り、チャリティラン、募金活動など日頃の活躍には頭が下がる思いでしたが、まさに草の根の活動が実を結んだものと感服致しました。

赤羽美栄子あずさ部部長も松本から駆け付け、ゲストも多数、賑やかな例会でした。

何より東京たんぽぽクラブの



東京江東クラブ60周年記念祝会懇親会で、十勝クラブ会長池田正勝さんは、祝辞の中で手品を披露し、皆さんを楽しませました。(写真：神谷雅子、文：神谷幸男)

皆さんが終始、満面の笑顔でした。東京西クラブからの出席は、篠原、吉田でした。(篠原文恵)

横浜とつかのエクササイズ

昨年4月、例会卓話をお願いした映画評論家の青木勝彦さんの卓話があるということで、10月5日、湘南とつかクラブの例会に出席しました。鎌倉クラブの参加もあり、約20人の例会。

新鮮だったのは、会食前に瀬戸俊孝担当主事が指導する脳を活性化させる「コグニサイズ」。2013年から「チェアエクササイズ」として例会で行っていて、cognition(認知)とexerciseの造語だそうです。座ったままでできる頭の体操とリズム遊戯です。ミスをすると思わず笑ってしまいますが、その時のリーダーの温かいフォローも見事でした。

私たちのクラブ例会でも、毎月、堀内浩二さんの「ちょっとウェルネス」があったのを思い出しました。

卓話の青木さんは、会場の湘南とつかYMCAには歩いていらっしゃるにお住まい。ご縁が出来たらと思いました。(吉田明弘)

在京クラブ合同例会

在京ワイズ合同新年会が2020年1月11日(土)14:00~18:30分、東京YMCA社会体育専門学校において、東京クラブのホストで行われます。

会費は5,000円。合同新年会は、在京クラブのメンバー、メネットだけでなく近県からも参加されます。

部を超えた交流の機会です。

毎月15日に発信
Change! 2022
EMCニュース

～編集後記～

11月号の編集作業中、ラグビーW杯日本大会の熱戦があり、台風19号、21号による甚大な被害が発生しました。また、天皇の即位礼正殿の儀も行われました。それぞれに、いろいろと感じ考えさせられました。

編集では、村野絢子さんの『シゲとあーやの子育て』に続いて、好評だった連載『旅で出会った人』が、先月号で終わりました。村野さんには、小休止をしていただき構想新たな企画を期待しています。

台風19号のため、あずさ部会が順延、東京八王子クラブの創立25年記念例会が中止となり、あてにした原稿が入りませんでした。誌面構成が例月とは、いささか変わりました。

今月号から、レイアウト、版下作成は、鳥越成代さんが本格的に取り組みました。(AY)